

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

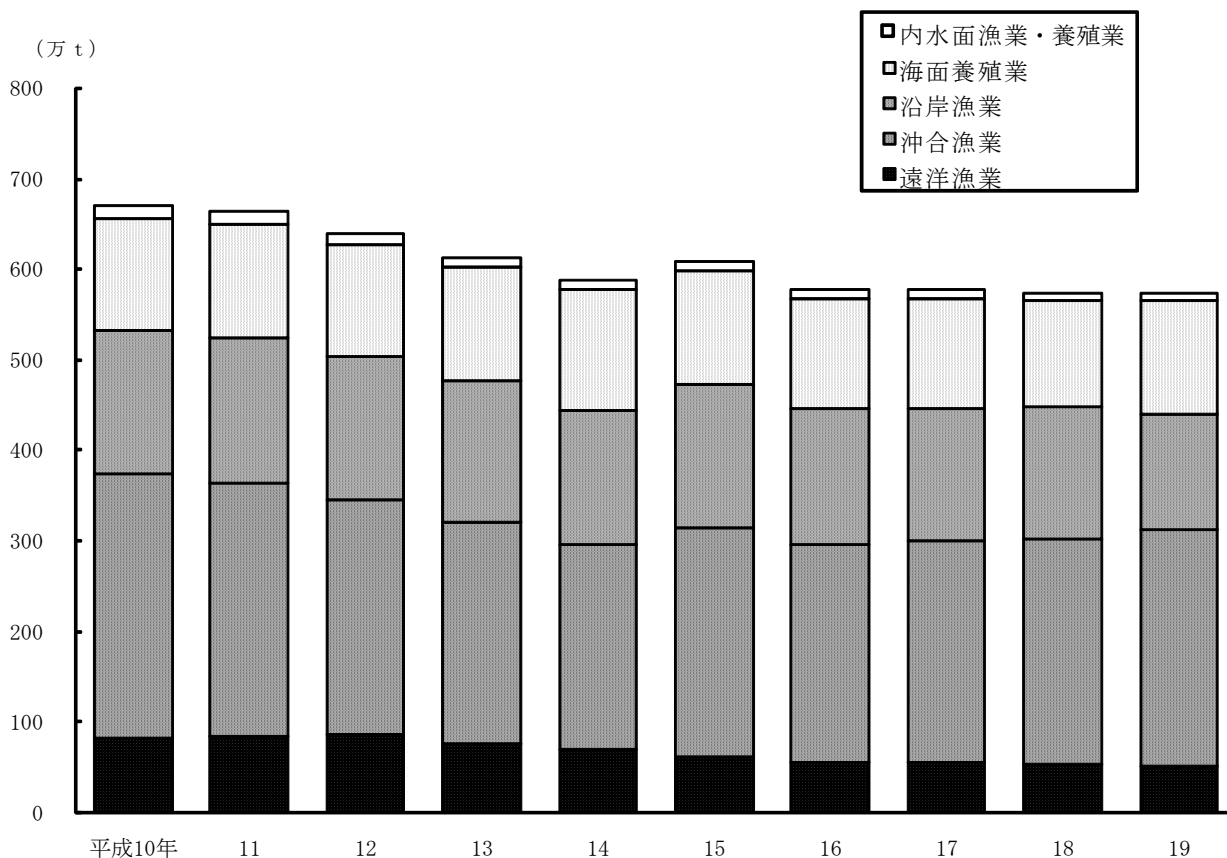
平成19年の我が国の漁業・養殖業の生産量は571万9,928 tで、前年に比べ1万5,047 t (0.3%) 減少した。

このうち、海面漁業の漁獲量は439万6,826 tで、前年に比べ7万2,705 t (1.6%) 減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は50万5,889 tで、前年に比べ1万2,435 t (2.4%) 減少、沖合漁業は260万3,624 tで、前年に比べ10万3,649 t (4.1%) 増加、沿岸漁業は128万7,313 tで、前年に比べ16万3,918 t (11.3%) 減少した。

また、海面養殖業の収穫量は124万2,112 tで、前年に比べ5万9,528 t (5.0%) 増加した。内水面漁業・養殖業の生産量は8万990 tで、前年に比べ1,870 t (2.3%) 減少した。

図1 漁業・養殖業生産量の推移



(1) 海面漁業

海面漁業の漁獲量は439万6,826 tで、前年に比べ7万2,705 t (1.6%) 減少した。

ア 部門別漁獲量

(ア) 遠洋漁業

漁獲量は50万5,889 tで、前年に比べ1万2,435 t (2.4%) 減少した。

これは、遠洋まぐろはえ縄等が増加したものの、遠洋いか釣、遠洋底びき網等が減少したためである。

(イ) 沖合漁業

漁獲量は260万3,624 tで、前年に比べ10万3,649 t (4.1%) 増加した。

これは、大中型1そうまき網その他等が減少したものの、沖合底びき網1そうびき、さんま棒受網等が増加したためである。

(ウ) 沿岸漁業

漁獲量は128万7,313 tで、前年に比べ16万3,918 t (11.3%) 減少した。

これは、小型定置網等が増加したものの、船びき網、採貝・採藻、大型定置網等が減少したためである。

図2 海面漁業部門別主要漁業種類別漁獲量

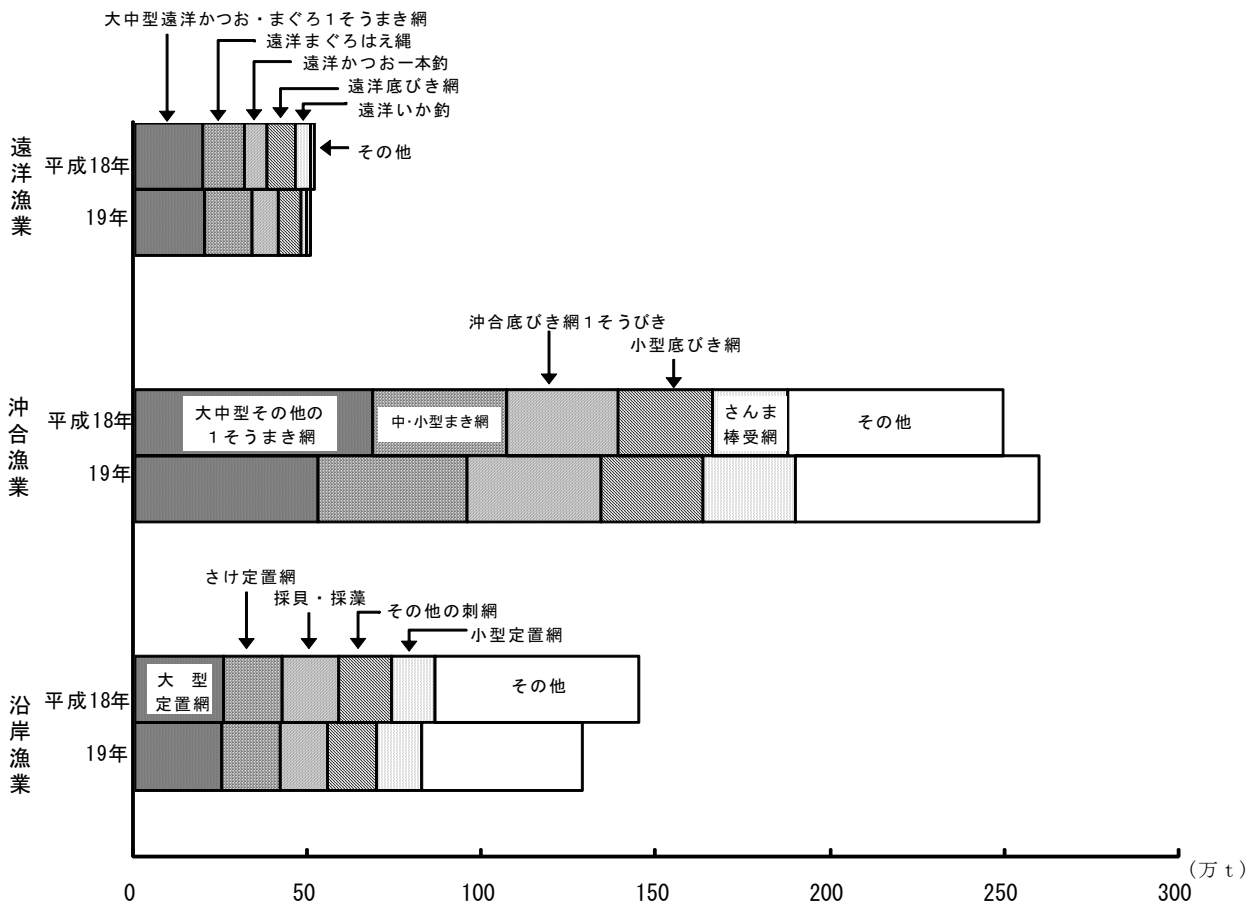


図3 海面漁業部門別漁獲量の推移

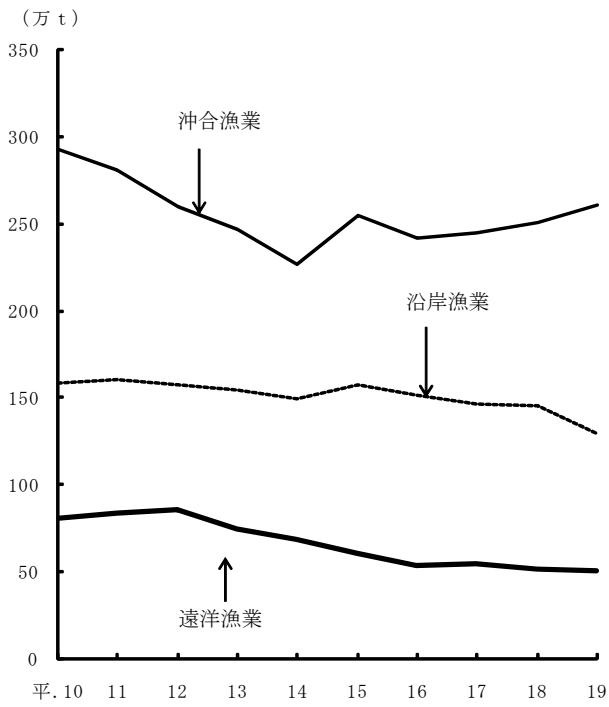


図4 遠洋漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

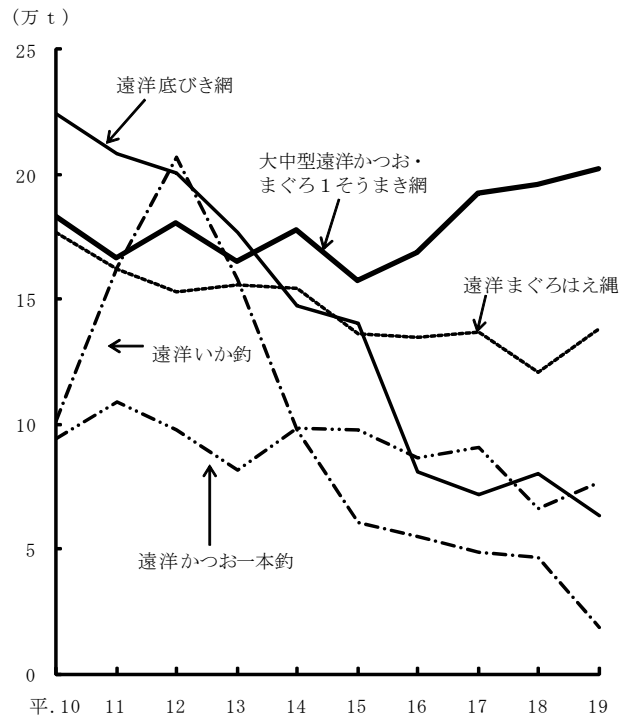


図5 沖合漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

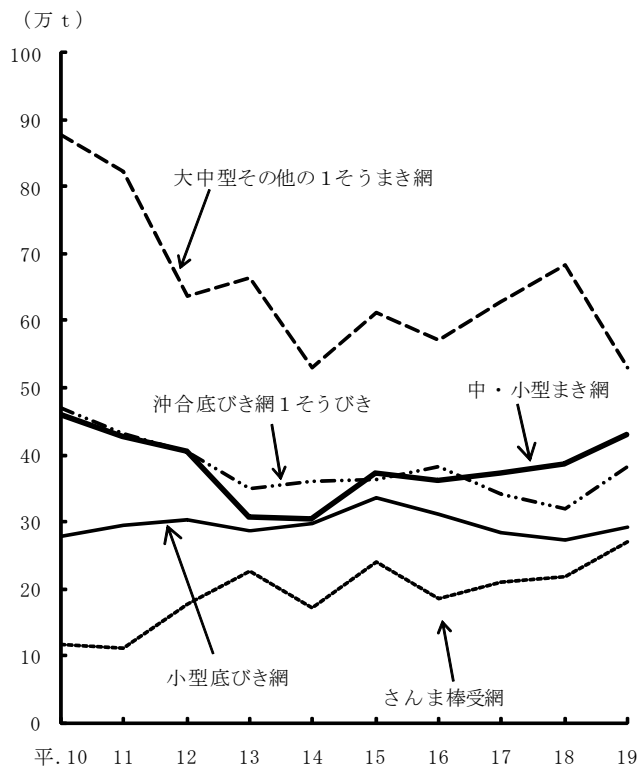
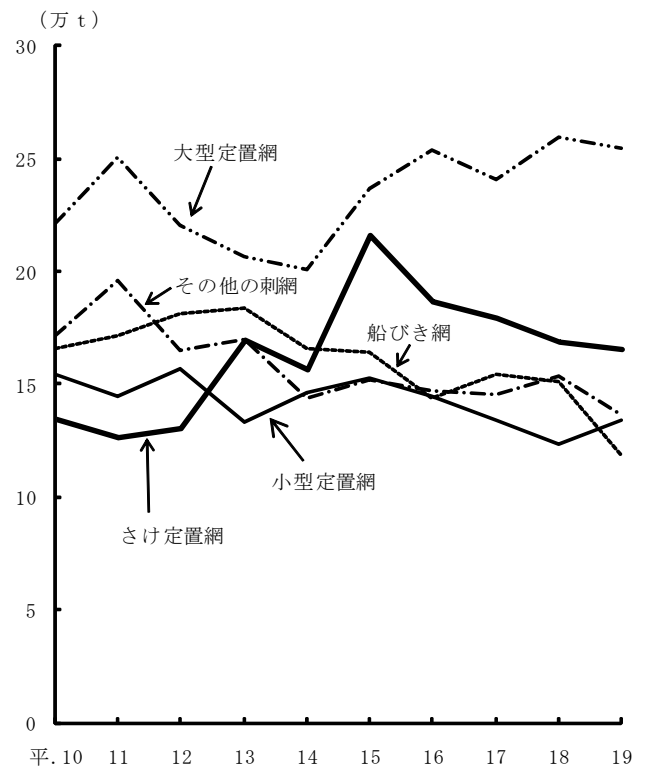


図6 沿岸漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

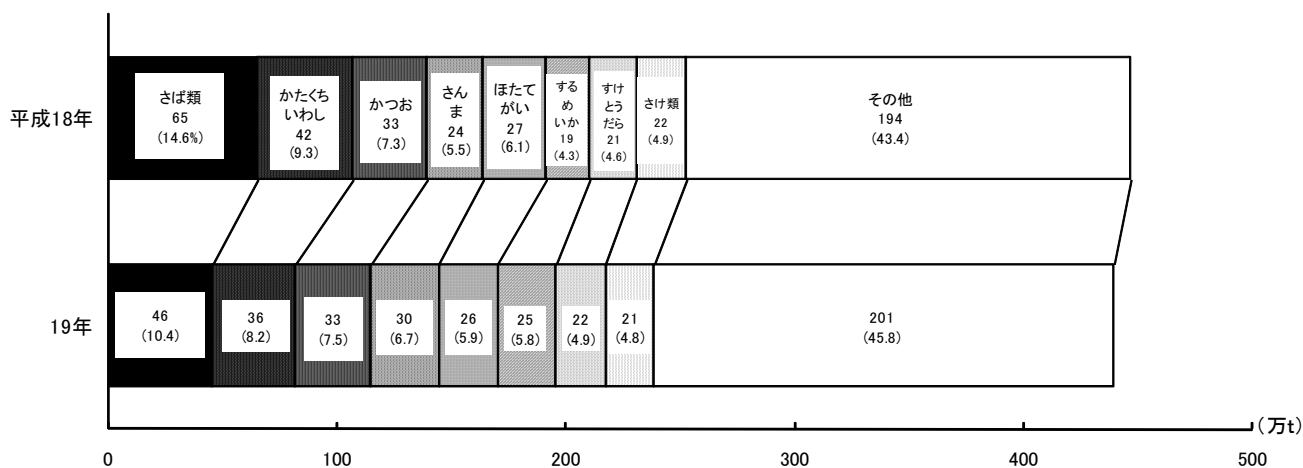


イ 主要魚種別漁獲量

海面漁業の主要魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した魚種は、するめいか、さんま、びんなが及びまいわしであり、減少した魚種はさば類、いかなご、かたくちいわし及びあかいかであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、さば類が10.4%、かたくちいわしが8.2%、かつおが7.5%、さんまが6.7%、ほたてがいが5.9%、するめいかが5.8%、すけとうだらが4.9%、さけ類が4.8%となった。

図7 海面漁業主要魚種別漁獲量



(ア) さば類

漁獲量は45万6,552 tで、前年に比べ19万5,845 t (30.0%) 減少した。

これは、大中型2そうまき網等による漁獲量が増加したものの、大型定置網、大中型その他の1そうまき網、中・小型まき網等による漁獲量が減少したためである。

(イ) かたくちいわし

漁獲量は36万2,460 tで、前年に比べ5万3,037 t (12.8%) 減少した。

これは、中・小型まき網等による漁獲量が増加したものの、大中型2そうまき網、大中型その他の1そうまき網等による漁獲量が減少したためである。

(ウ) かつお

漁獲量は33万313 tで、前年に比べ2,269 t (0.7%) 増加した。

これは、近海かつお一本釣等による漁獲量が減少したものの、遠洋かつお・まぐろまき網、近海かつお・まぐろまき網等で漁獲量が増加したためである。

(エ) さんま

漁獲量は29万6,521 tで、前年に比べ5万1,935 t (21.2%) 増加した。

これは、さんま棒受網等による漁獲量が増加したためである。

(オ) ほたてがい

漁獲量は25万8,303 tで、前年に比べ1万3,625 t (5.0%) 減少した。

これは、漁獲量の大部分を占める北海道において、漁獲量が減少したこと等のためである。

る。

(カ) するめいか

漁獲量は25万3,494 tで、前年に比べ6万3,177 t (33.2%)増加した。

これは、沖合底びき網1そうびき、沿岸いか釣等による漁獲量が増加したためである。

(キ) すけとうだら

漁獲量は21万6,636 tで、前年に比べて9,842 t (4.8%)増加した。

これは、小型定置網等による漁獲量が減少したものの、沖合底びき網1そうびき等が増加したためである。

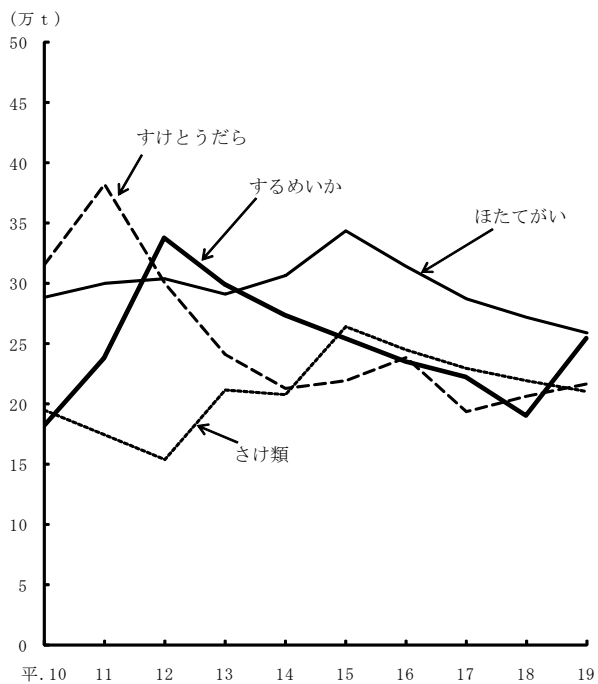
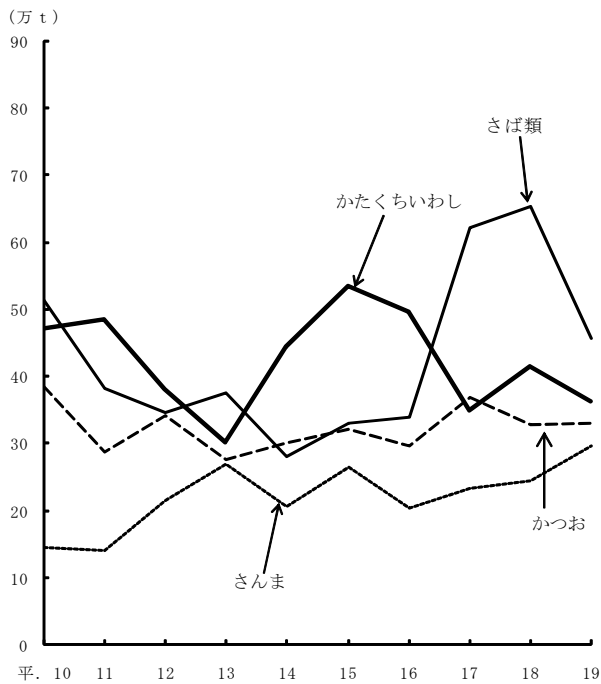
(ク) さけ類

漁獲量は21万416 tで、前年に比べ8,491 t (3.9%)減少した。

これは、さけ定置網等による漁獲量が減少したためである。

図8 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移(上位1位~4位)

図9 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移(上位5位~8位)



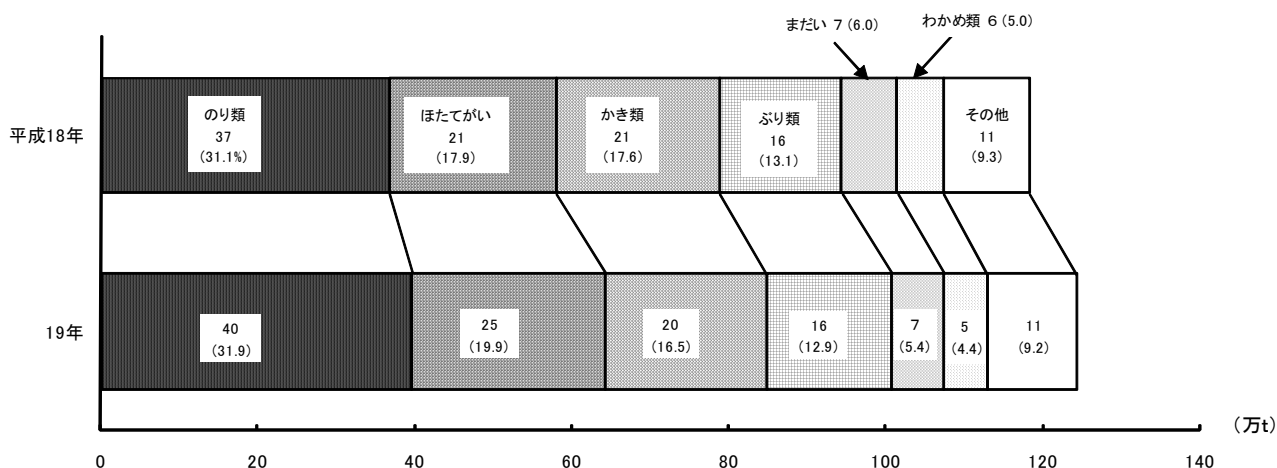
(2) 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は124万2,112 tで、前年に比べ5万9,528 t (5.0%)増加した。

収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、ほたてがい、のり類であり、減少した主な魚種は、まだい、かき類、わかめ類であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類31.9%、ほたてがい19.9%、かき類(殻付き)16.5%、ぶり類12.9%、まだい5.4%、わかめ類4.4%となった。

図 10 海面養殖業魚種別収穫量



ア 魚類

収穫量は 26 万 2,073 t で、前年に比べ 3,690 t (1.4%) 増加した。

(ア) ぶり類

収穫量は 15 万 9,749 t で、前年に比べ 4,745 t (3.1%) 増加した。
これは、鹿児島県等で増加したためである。

(イ) まだい

収穫量は 6 万 6,663 t で、前年に比べ 4,478 t (6.3%) 減少した。
これは、長崎県、愛媛県等で減少したためである。

(ウ) ぎんざけ

収穫量は 1 万 3,567 t で、前年に比べ 1,521 t (12.6%) 増加した。

イ 貝類

収穫量は 45 万 4,013 t で、前年に比べ 3 万 1,619 t (7.5%) 増加した。

(ア) ほたてがい

収穫量は 24 万 7,516 t で、前年に比べ 3 万 5,422 t (16.7%) 増加した。
これは、宮城県で減少したものの、北海道、青森県等で増加したためである。

(イ) かき類 (殻付き)

収穫量は 20 万 4,474 t で、前年に比べ 3,708 t (1.8%) 減少した。
これは、宮城県、岩手県等で減少したためである。

図 11 海面養殖業魚種別収穫量の推移（魚類）

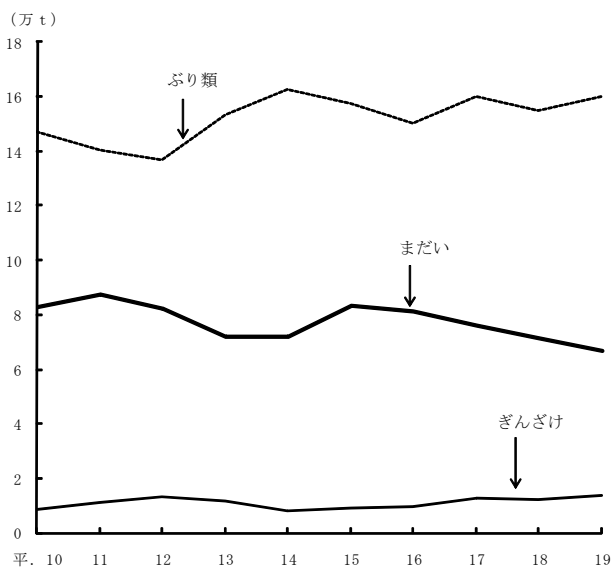
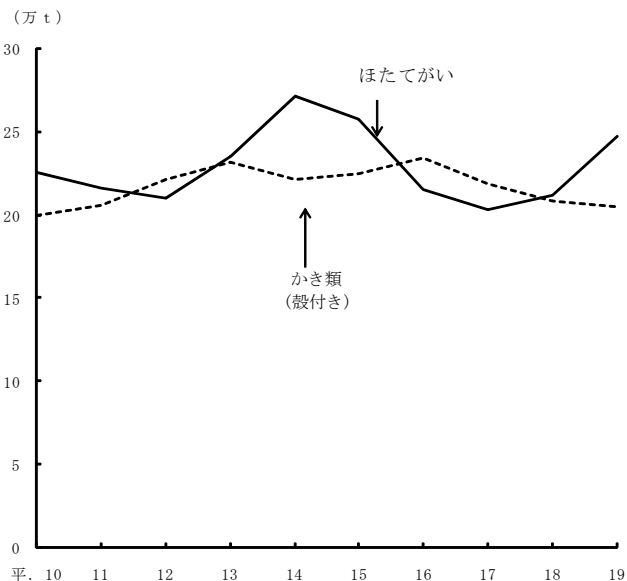


図 12 海面養殖業魚種別収穫量の推移（貝類）



ウ 海藻類

収穫量は 51 万 3,965 t で、前年に比べ 2 万 3,903 t (4.9%) 増加した。

(ア) のり類 (生重量)

収穫量は 39 万 5,777 t で、前年に比べ 2 万 8,099 t (7.6%) 増加した。

これは、佐賀県、兵庫県等で増加したためである。

(イ) わかめ類

収穫量は 5 万 4,249 t で、前年に比べ 4,843 t (8.2%) 減少した。

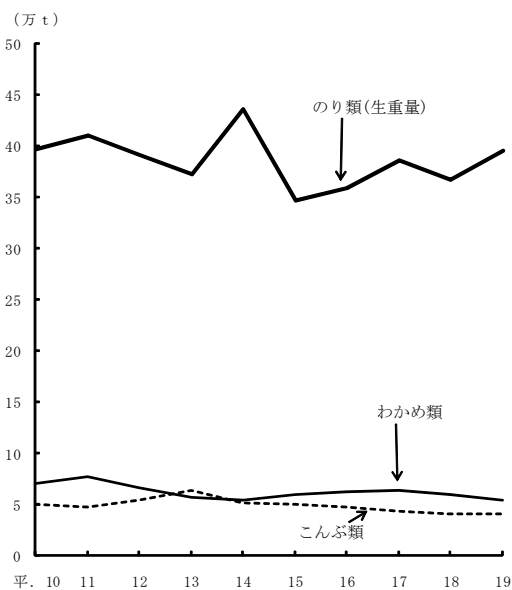
これは、宮城県、兵庫県等で減少したためである。

(ウ) こんぶ類

収穫量は 4 万 1,356 t で、前年に比べ 17 t (0.0%) 増加した。

これは、岩手県等で減少したものの、北海道等で増加したためである。

図 13 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



(3) 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要 106 河川及び 24 湖沼）の漁獲量は 3 万 9,038 t で、前年に比べ 2,663 t（6.4％）減少した。

ア 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は 2 万 1,151 t で、前年に比べ 1,552 t（6.8％）減少した。

また、湖沼における漁獲量は 1 万 7,887 t で、前年に比べ 1,111 t（5.8％）減少した。

イ 主要魚種別漁獲量

(ア) さけ類

漁獲量は 1 万 3,524 t で、前年に比べ 1,375 t（9.2％）減少した。

これは、岩手県、福島県等で増加したが、全体の 5 割強を占める北海道で減少したためである。

(イ) しじみ

漁獲量は 1 万 942 t で、前年に比べ 2,470 t（18.4％）減少した。

これは、島根県、青森県等で減少したためである。

(ウ) あゆ

漁獲量は 3,284 t で、前年に比べ 270 t（9.0％）増加した。

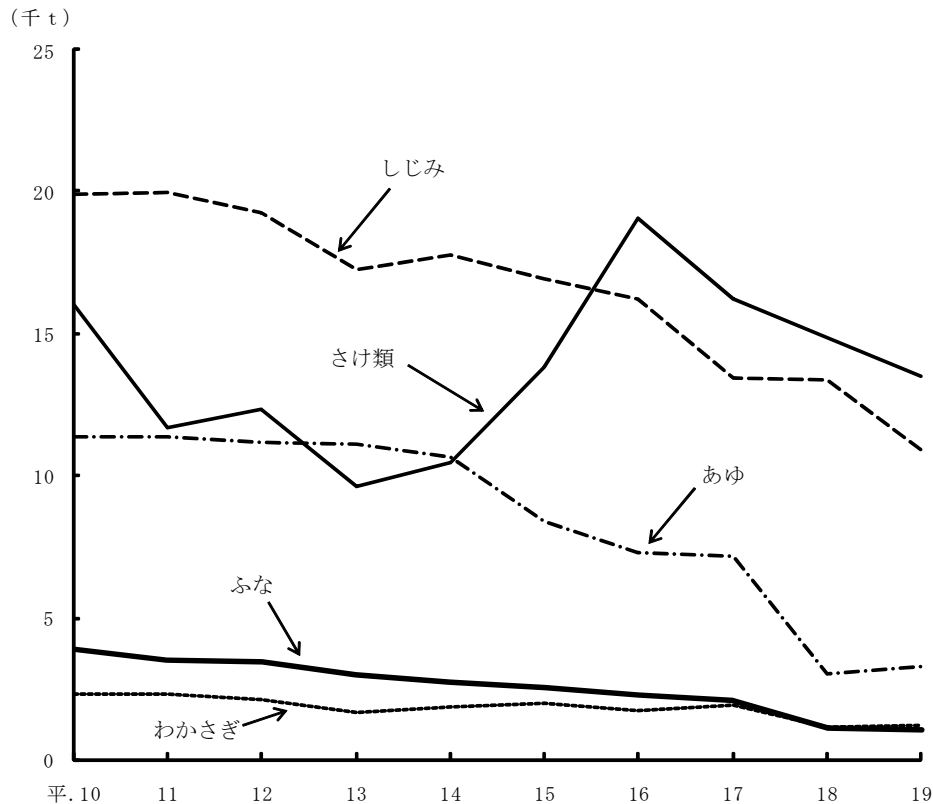
これは、岐阜県、茨城県等で増加したためである。

(エ) わかさぎ

漁獲量は 1,194 t で、前年に比べ 66 t（5.9％）増加した。

これは、茨城県、北海道等で増加したためである。

図 14 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



(4) 内水面養殖業

内水面養殖業の収穫量は4万1,953 tで、前年に比べ794 t (1.9%)増加した。

ア うなぎ

収穫量は2万2,241 tで、前年に比べ1,658 t (8.1%)増加した。

これは、宮崎県、鹿児島県等で増加したためである。

イ にじます

収穫量は7,319 tで、前年に比べ264 t (3.5%)減少した。

これは、長野県、群馬県等で減少したためである。

ウ あゆ

収穫量は5,807 tで、前年に比べ463 t (7.4%)減少した。

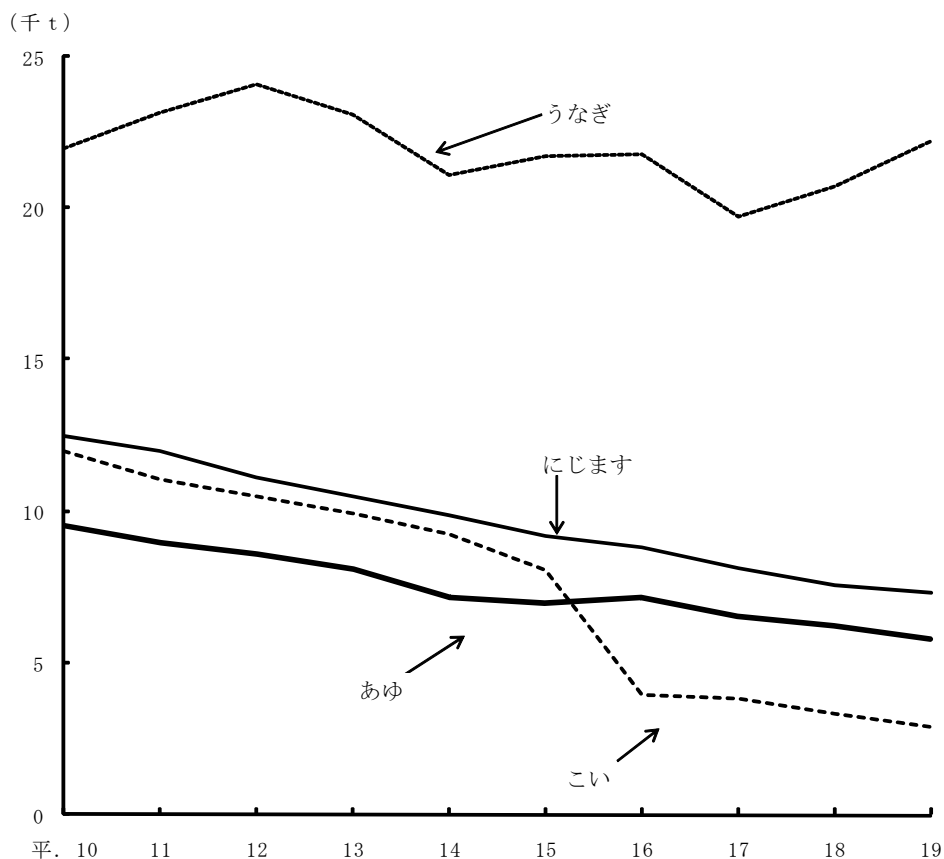
これは、和歌山県、宮崎県等で減少したためである。

エ こい

収穫量は2,893 tで、前年に比べ413 t (12.5%)減少した。

これは、群馬県、宮崎県等で減少したためである。

図 15 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移



2 漁業・養殖業生産額

平成 19 年の漁業生産額は 1 兆 6,533 億円で、前年に比べ 2.9 % 増加した。

図 16 漁業生産額の構成比

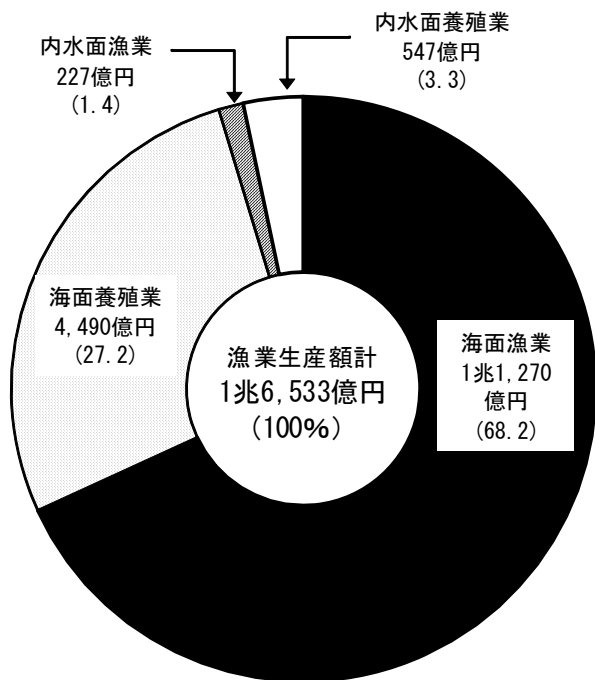
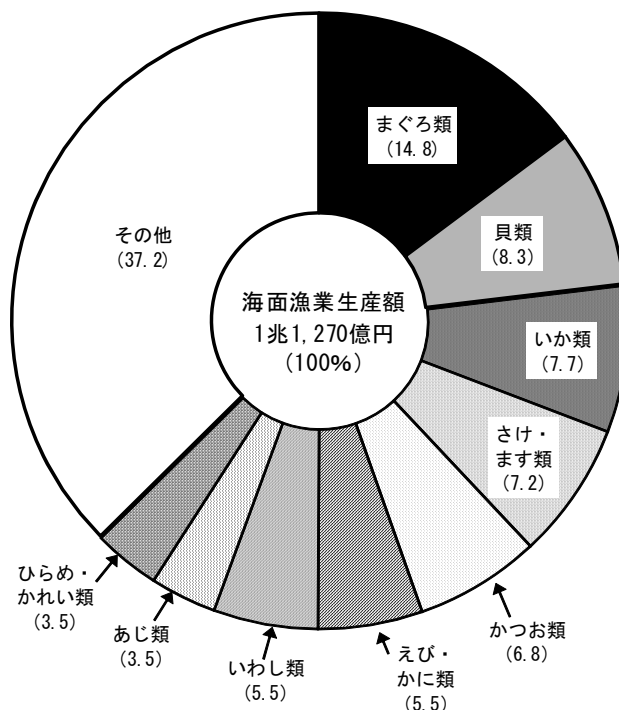


図 17 海面漁業生産額の構成比



(1) 海面漁業

海面漁業の生産額は 1 兆 1,270 億円で、前年に比べ 4.5 % 増加した。

魚類の生産額は 7,943 億円で、前年に比べ 6.2 % 増加した。

ア 生産額が増加した主な魚種

(ア) かつお

生産額は 748 億円で、価格が上昇したことから前年に比べ 23.9 % 増加した。

(イ) めばち

生産額は 679 億円で、漁獲量が増加したことに加え、価格も上昇したことから前年に比べ 22.9 % 増加した。

(ウ) しらす

生産額は 287 億円で、価格は低下したものの、漁獲量が増加したことから前年に比べ 23.8 % 増加した。

イ 生産額が減少した主な魚種

(ア) みなみまぐろ

生産額は83億円で、価格は上昇したものの、漁獲量が減少したことから前年に比べ30.3%減少した。

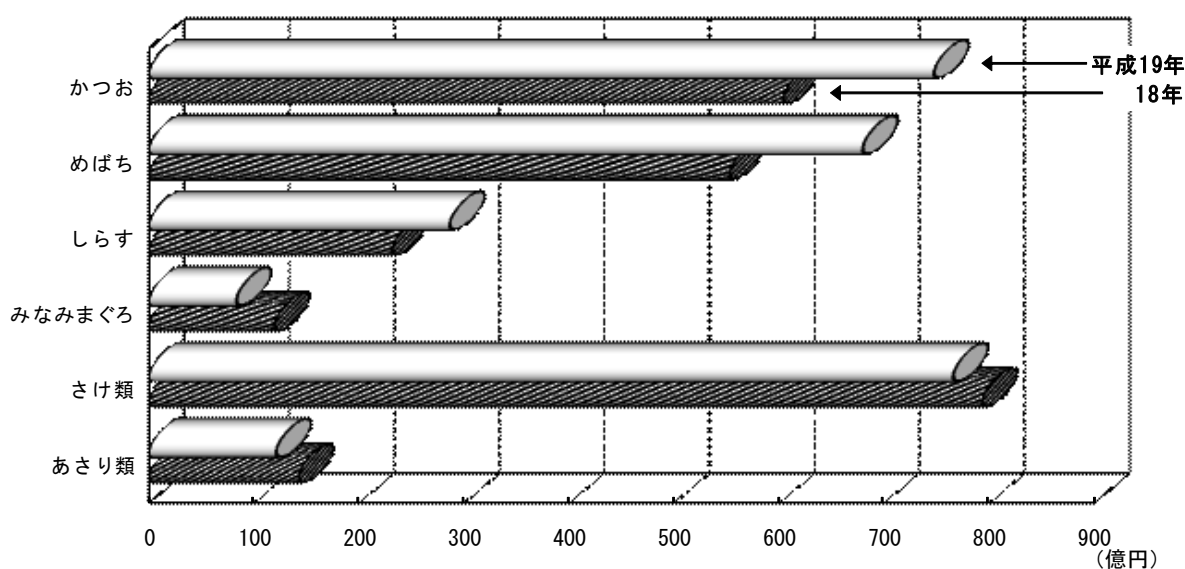
(イ) さけ類

生産額は765億円で、漁獲量が減少したことから前年に比べ3.5%減少した。

(ウ) あさり類

生産額は121億円で、漁獲量は増加したものの、価格が低下したことから前年に比べ15.1%減少した。

図18 海面漁業の主要魚種別生産額



(2) 海面養殖業

海面養殖業の生産額は4,490億円で、ほぼ前年並であった。

魚類養殖の生産額は2,138億円で、前年に比べ0.3%減少した。

ア 生産額が増加した主な魚種

(ア) ほたてがい

生産額は409億円で、収穫量が増加したことから前年に比べ16.1%増加した。

(イ) のり類

生産額は950億円で、収穫量が増加したことに加え、価格も上昇したことから前年に比べ4.9%増加した。

イ 生産額が減少した主な魚種

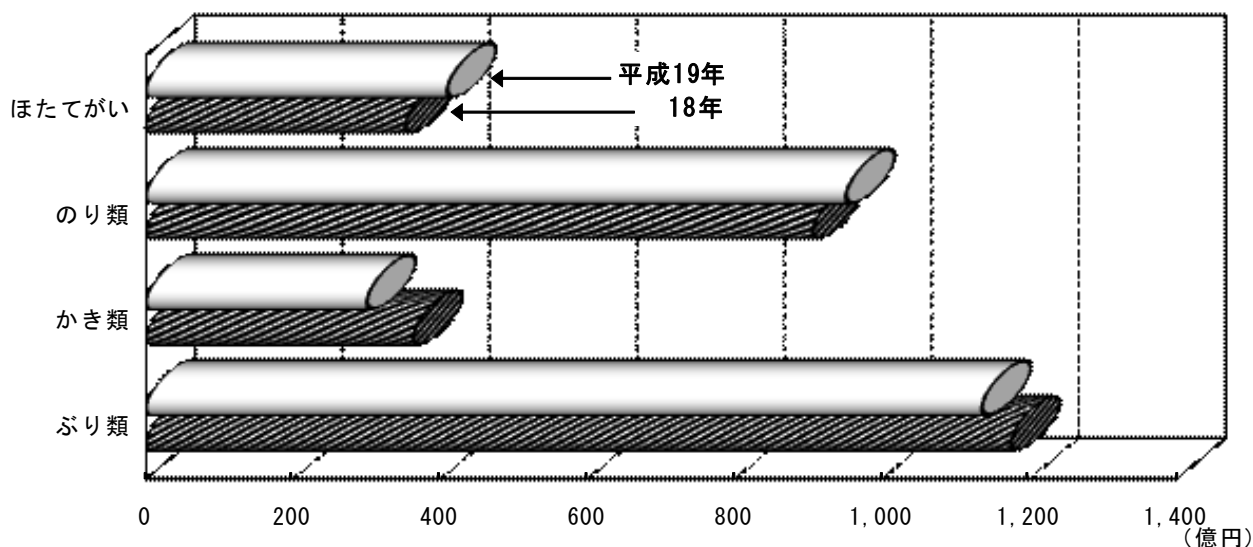
(ア) かき類

生産額は300億円で、収穫量は増加したものの、価格が低下したことから前年に比べ17.4%減少した。

(イ) ぶり類

生産額は1,135億円で、収穫量は増加したものの、価格が低下したことから前年に比べ3.4%減少した。

図 19 海面養殖業の主要魚種別生産額



(3) 内水面漁業・養殖業

内水面漁業・養殖業の生産額は773億円となり、前年に比べ1.0%減少した。

ア 内水面漁業の生産額は227億円で、前年に比べ5.2%減少した。

これは、しじみの生産額が69億円で、価格は上昇したものの、漁獲量が減少したことから、前年に比べ13.7%減少したためである。

イ 内水面養殖業の生産額は547億円で、前年に比べ0.9%増加した。

これは、うなぎの生産額が317億円で、価格は低下したものの、収穫量が増加したことから、前年に比べ4.9%増加したためである。

図 20 内水面漁業生産額の魚種別構成割合

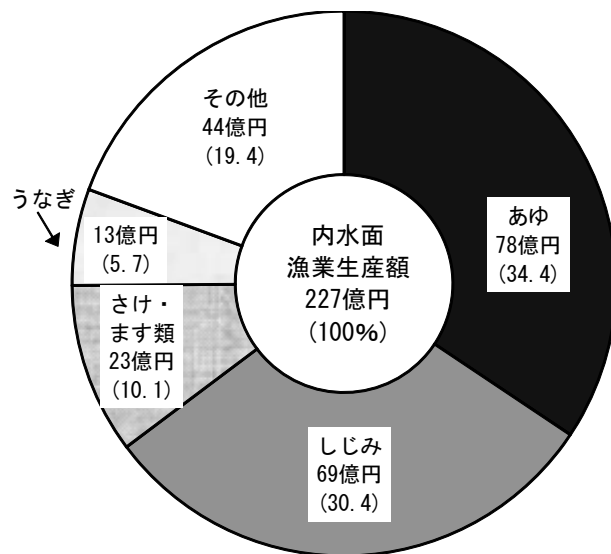


図 21 内水面漁業及び養殖業の主要魚種別生産額

